

笑顔が集う交流の場

いわぬま市民交流フェスティバル

市民会館・中央公民館で、「第40回いわぬま市民交流フェスティバル」が開催されました。

今年のテーマは「人々の笑顔が集う 学びの舞台」で、市内で活動している71団体約950人が、舞台発表や作品展示を行い、日頃の活動の成果を披露しました。

また、熱々の白菜鍋や温かいコーヒー、パン、お弁当などの販売もあり、来場者はゆったりとした時間を過ごしていました。

2日間で約2700人が来場し、寒い時期ではありませんでしたが「ホット」に市民の交流が図られていました。



▲展示作品を鑑賞する来場者



▲日頃の成果をいきいきと披露する発表者たち

2/15・16

あの日を忘れないために

東日本大震災追悼行事

千年希望の丘相野釜公園で、東日本大震災の追悼行事「希望の灯火」が行われました。

多くの方に寄付していただいた灯ろうを慰霊碑へと向かう道などに並べ、一つひとつ明かりを灯していきました。震災で亡くなられた方へのメッセージや未来を生きる希望を書いたものなど、それぞれの思いが記された灯ろうも並んでいました。亡くなられた方を悼むように、降り続く雨の中、181個の灯ろうが力強く輝いていました。

11日には、市民会館に献花会場が設けられ、遺族の方などが献花に足を運びました。



▲たくさんの灯ろうが温かく光っていました

3/10



▲傘をさしながらの点火となりました

令和初の卒業生が羽ばたく

市内小・中学校卒業式

3月7日、市内中学校で卒業式が行われ、計434人が学び舎を巣立ちました。

玉浦中学校（石塚一江校長）では、58人が卒業しました。新型コロナウイルスの影響により卒業証書は各クラスの代表が受けとるなど、規模縮小での開催となりました。その中でも、生徒たちは3年間の思い出を胸に、輝かしい姿で式に参加していました。

中学校での3年間で成長した子どもの姿を見て、涙ぐむ保護者や教員の様子も見られました。

3/7



▲クラスの代表として卒業証書を受けとる石川陽翔さん（玉中）

3/18



▲式の前にステージから入場する児童（南小）

18日、市内小学校で卒業式が行われ、計471人が慣れ親しんだ校舎に別れを告げました。

岩沼南小学校（和泉千佳子校長）では、104人が卒業し、式が始まる前には、児童から保護者へ「メッセージ」が渡され、感謝の言葉が伝えられました。

和泉校長は「大きな夢や希望を抱き、輝く皆さんであってほしい。夢に向かって羽ばたいてください」と児童へ言葉を贈りました。

児童代表の佐藤乃愛さんは「今までたくさんのことを経験し成長することができた」と話し、小学校での思い出を胸に学び舎を巣立ちました。

3/13



▲市長表敬訪問で県大会優勝を祝いました

市役所で、岩沼西中2年の丹野蒼士さんが市長を表敬訪問しました。今回、「第42回全国スポーツ少年団剣道交流大会宮城県予選会」で優勝し、全国大会に出場予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。丹野さんは「1年に数回ある大事な試合への出場を目標に頑張っている」と話し、日頃の努力の積み重ねを経て、県大会優勝を勝ち取ったことが伺えました。菊地市長は「岩沼の誇り。今後も頑張ってもらいたい」と激励の言葉を述べました。

努力で掴んだ県大会優勝

市長表敬訪問

3/24



▲郡山淳仙台支店長（左）からピンバッジを受け取りました

▲寄贈されたピンバッジ

市役所で、東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレーに向けて機運醸成の取り組みを実施しているコカ・コーラボトラーズジャパン(株)からオリジナルピンバッジ800個が寄贈されました。新型コロナウイルスの影響で、本大会や聖火リレーが延期となりましたが、今回いただいたピンバッジには、「Tokyo2020」や「MANAMA」の文字が記されています。今後のオリンピック関連のイベントなどで活用していく予定です。

五輪を盛り上げるために

ピンバッジ寄贈

3/25



▲枝の先には、小さな芽が揺れていました

千年希望の丘相野釜公園で、令和元年度にご協力をいただいた派遣職員の皆さんによる記念植樹が行われました。東日本大震災以降、全国の自治体から多くの職員を派遣していただき、これまで225人の方に復興を支えていただきました。今回は、有志の職員8人が、交流センターの北西側に2本のオオシマザクラを植樹しました。2号丘の頂上から見下ろすことができる位置となっています。桜の成長とともに岩沼市が復興することを願って、3月末に5人の方が帰任されました。ご協力ありがとうございました。

大きく花開け

派遣職員による記念植樹

4/1



▲幼児も使えるブランコです

一丁目公園にはすべり台、三丁目公園にはブランコが新設され、完成した真新しいブランコでは、親子で仲良く遊ぶ姿が見られました。この寄付金は、東日本大震災の被災地を支援することを目的に、2012年から取り組む「東北応援社員募金」の一環として、趣旨に賛同した社員から集めた募金に、会社からの募金が増えさせられたものです。

公園を市民交流の場に

株ドコモCS東北からの寄付